

幌延に咲く花をご紹介します

7月号は幌延に咲く花の写真特集になりますが、花の写真を見ても名前も何もわからないという方がいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな方のために、また、もう少し詳しく町に咲く花を知りたいという方のために今回は1ページで写真の説明をし、次ページはカラー写真のみで存分に楽しんでもらおうと思い、写真特集を3ページ構成にしてみました。

- ① ブルーポピー：花期は6～7月、正式名称はメコノプシス。日本での育成はとても困難であるため「幻の青いケシ」と呼ばれている。容易に人が近づけないような高山に自生していることから、「天上の妖精」と呼ばれることもあるそう。
- ② テシオコザクラ：花期は5～6月で、道北の蛇紋岩地帯に見られる。葉は根生し掌状に裂け、花が白色で平開しないことなどが特徴。白だけではなくピンクの花を咲かせることもあり、とても珍しい色とされている。また、町の花として親しまれています。
- ③ エゾイチゲ：花期は5～6月で、山地から高山帯の林縁や草地にはえるのが特徴。同属のヒメイチゲは花弁が5枚なのに対し、エゾイチゲは6枚以上が多く、葉の幅もあり花弁も大きい。
- ④ エゾノハナシノブ：花時は6～7月。ミヤマハナシノブの亜種として知られており、準絶滅危惧種に認定されている。
- ⑤ エゾミヤマクワガタ：花期は5～7月で、蛇紋岩地帯に咲く花。キクバクワガタの裏面が紫色になった変種で、クワガタという名前は、長く突き出る2本の雄しべを兜の鍬形に思わせることからついた名前だそうです。
- ⑥ ツマトリソウ：花期は6～7月で、温帯および寒帯に広く分布しています。葉の形は広披針形で、先が尖っているのが特徴。(変種はコツマトリソウと呼ばれ、ツマトリソウよりも小柄で葉先は丸みを帯びている。)
- ⑦ ヒオウギアヤメ：花期は6～8月で、湿地にはえる多年草で太い根茎と剣状の葉をもちます。外側の3個の花被片は広卵形で、基部に黄色と紫色の網目模様があります。
- ⑧ ホソバシャクヤク：花時は4～5月で、細かく切り込まれた葉が特徴。
- ⑨ ミツバオウレン：花期は6～7月で、針葉樹林内や湿原に見られる。根出葉は光沢のある小葉3個からなる。オウレンに似ており三小葉をもつことから名前を付けられている。オウレンには5種類あり、ミツバオウレンは萼片の幅が細いのが特徴。
- ⑩ ルピナス：花期は4～6月で、耐寒性が強く、色は6色以上もの種類があります。小花の咲き上がる様子が、藤の花を逆さにしたように見えることから「昇り藤」と呼ばれることもあります。
- ⑪ ワスレナグサ：花期は4～6月で、色は青や白などがあります。ワスレナグサにとっても似ている花がいくつかあり、それぞれ花の大きさや葉っぱの形で判別できます。